

事例紹介大学等のプログラム概要【学生支援のテーマ別での実施】

《障害のある学生への支援》

1. 宮城教育大学（平成 19 年度選定）

プログラムの名称	障害学生も共に学べる総合的學生支援 －障害学生との共生により人間性豊かな社会人を育成するための入学から就職までの総合的學生支援システム構築
（プログラムの概要） 本学は、全国有数の全障害領域を網羅する特別支援教育教員養成課程を設置している。障害学生に対し全学的観点で修学支援に取り組んできた。この実績は、日本学生支援機構の障害学生支援拠点校としてモデル的役割を担い、社会的にも高い評価を得ている。また、この教育効果は、障害学生のみならず支援学生および一般学生にも好影響を与えている。 本事業では、障害学生に対して入学から卒業・就職までを視野に入れた、総合的學生支援システムの構築を企図し、教職員・支援学生・障害学生の啓発・研修・就職支援を柱とする『学生教育研修事業』および障害学生への支援にかかるノウハウを活かした支援技術の向上・拡充を『障害学生支援技術開発促進事業』と位置づけ推進していくことにより、特別支援教育マインドを有した教員養成をおこなっていくものである。	

2. 富山大学（平成 19 年度選定）

プログラムの名称	「オフ」と「オン」の調和による学生支援 －高機能発達障害傾向を持つ学生への支援システムを中核として
（プログラムの概要） 現代の若者の多くは「社会的コミュニケーションの困難さ」を有しており、そのため多彩な問題が大学や社会に生じている。このような傾向は、近年注目されている高機能発達障害の特徴と重なるものがあり、発達障害傾向をもつ学生に対する包括的な支援システムの確立は、現代の大学・社会が抱える問題への強力な支援ツールとなりうる。 本プロジェクトではこのような学生に対して、オフラインとオンラインの二重支援システムを構築し実践する。オフラインシステムはトータルコミュニケーション支援室を核として、FD の企画、カウンセリング・コーチングによる直接支援、具体的に生じた問題へのサポートチームによる支援等を行う。オンラインシステムは、SNS を活用したネットワークを構築し、問題を抱える学生への継続的な支援、e-learning による自己学習ツールの提供、卒業後のキャリアコンサルティングなどを含めた継続的かつ総合的な支援を行う。	

3. 信州大学（平成 19 年度選定）

プログラムの名称	個性の自立を《補い》《高める》学生支援 －発達障害にも対応できる人間力向上支援プログラム
（プログラムの概要） 本プロジェクトは、人間力向上に焦点を当て、発達障害等のきわめて専門的な支援ニーズの高い学生への支援までも実現するための取組である。これを全学で展開するために、既存の取組を再構成し、全学的組織である学生支援委員会において統括する。全 1 年次生に対して、質問紙・面接等により網羅的にニーズ把握を行い、自然に恵まれた本学ならではの、フィールド体験による予防的、開発的プログラムを提供する。その結果を受け、学生のニーズに応じて社会人としてのライフスキル（コミュニケーションスキル、対人関係スキル等）向上のためのプログラムを提供する。さらに個別的な支援を必要とする学生に対しては、修学支援、授業改善、医療相談、進路相談等を含む専門的支援が継続的に提供される。これらの連続的でユニバーサルデザイン化された支援システムは、多様な学生ニーズに応え、学生一人ひとりの潜在的な能力の開発と自己実現をめざすものである。	

4. 佐世保工業高等専門学校・釧路工業高等専門学校（平成 19 年度選定）

プログラムの名称	高等専門学校での特別支援教育推進事業 －発達障害のある学生に対する支援に関する共同取り組み
<p>（プログラムの概要）</p> <p>技術者教育において、理工系学生に多いといわれる発達障害を持つ学生への教育支援は、さまざまな能力や特性を持った人々が共生できる社会を形成するために、解決すべき重要な課題である。本プログラムは、発達障害のある学生に対する具体的な支援の在り方に関して、支援実績が豊富な佐世保工業高等専門学校と、調査・研究活動において先進的な業績を有する釧路工業高等専門学校が共同事業として実践的に取組み、高等専門学校全体における特別支援教育体制の整備・拡充を図る。そのため、両校が、発達障害のある学生に対し、その状態に応じて、修学支援、就労支援、ソーシャルスキル・トレーニングやメンタルケアなどの生活支援を、外部専門機関等と連携を取りながら実施し、その取組みを相互評価することにより、実際に稼動する特別支援教育システムを構築する。</p>	